1. 評 価 報 告 概 要 表

評価確定日　平成19年12月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1570301018
法人名	特定非営利活動法人　南葉
事業所名	グループホーム南葉
所在地	新潟県上越市茨沢156番地1 (電　話)　025－522 -8400

評価機関名	社団法人　新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号　新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成　19 年　10 月　23 日

【情報提供票より】(　19　年　9 月　12 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成　16 年　5 月　1 日		
ユニット数	2　ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20　人	常勤　16人、非常勤　4人、常勤換算 19.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋　造り 1階　建ての　1　階　部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	42,000　円	その他の経費 (月額)	18,000　円
敷金	□ 有 (　円)	■ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	□ 有 (　円) ■ 無	有りの場合 償却の有無	□ 有 □ 無
食材料費	朝食　300　円	昼食　500　円	
	夕食　500　円	おやつ　円	
	または1日あたり　1,300　円		

(4) 利用者の概要　(　19 年　9 月現在)

利用者人数	18　名	男性　3　名	女性　15　名
要介護1	4　名	要介護2	6　名
要介護3	6　名	要介護4	2　名
要介護5	0　名	要支援2	0　名
年齢	平均　87　歳	最低　78　歳	最高　95　歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上越地域医療センター病院・畠山医院・ゆう歯科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは上越バイパス近くにあり、買い物に行くにも便利な場所である。また、農地に隣接して行き止まりの地に建っていることから、落ち着きのある環境となっている。ホーム入り口の自動ドアは、隙間から風が入らないように下部の隙間を埋め込み、寒冷地であることを配慮した対策を講じている。二重ドアの間のスペースは、サンルームのように花鉢を置いたり、シルバーカーを設置して、親しみやすく出かけやすい環境を作っている。敷地内には、畑や散歩できるスペースがあり、車椅子でも移動できるように路面が舗装されているなど、外出しやすい環境作りに取り組んでいる。ホーム内は広く、木のぬくもりを感じる暖かくゆったりとした空間で、個々の入居者も穏やかに過ごされている。
医療機関との密な連携の下、ホームでの看取りも実践しており、看護師を中心とした勉強会を行なって常に職員の資質向上に心掛けている。地域密着型のホームとして、認知症予防教室の開催や近隣の学校行事への参加をしたり、地域全体の認知症ケアの向上をめざして他のグループホームとの情報交換の場作りにも取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目:外部4)** 過去の外部評価結果報告書を職員全員で見直し、改善する点について職員会議で検討している。ホーム便りの作成を行い、ホームの様子や地域との関わりについて毎月家族に配布したり、地域の回覧板やボランティアの小学校等に配布している。食材等の買物には利用者と職員が一緒に出かけ、買い物の楽しみや自分でお金を払う喜びを味わえるよう心がけている。個々の状態に応じて調理にもできるだけ参加してもらうようにしている。センター方式のアセスメントに取り組み、本人やご家族の思いを受け止めて介護計画に反映できるように取り組んでいる。 **今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4)** 評価シートを全員に配布し、職員全員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目:外部4, 5, 6)** 運営推進会議を隔月に開催し、提供しているサービス内容等の報告や、地域に開かれたホームとなるための建設的な意見交換の場として活用している。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目:外部7, 8)** 毎月発行のホーム便りで利用者の状況、エピソードを写真入りで伝え、職員の異動等も伝えている。家族来訪時には、職員からは利用者の暮らしぶり、看護師からは健康状態、事務からは金銭管理状況の報告を行なっている。家族総会を毎年開催し、職員が席をはずして家族同士だけでの意見交換会も行い、意見や要望、苦情等を会長からホームに伝えてもらうシステムとなっている。また、家族が担当職員を覚えて話しかけやすいよう、職員の顔写真を玄関にわかりやすく掲示している。
重点項目④	**日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3)** 町内会に加入し、住民の一人として草刈りや祭り・運動会等に参加している。近隣の学校の行事にも積極的に参加したり、地域の消防隊に防災訓練等への参加協力をお願いしている。また、保育園から老人会まで様々な人からボランティアに来て頂き、交流を深めている。近所の方から野菜を分けて頂いたり、外出時声をかけて頂くなど、地域に溶け込んだホームとなっている。市町村との連携については、月2回上越市介護保険課を訪問し情報交換に努めている。地域包括支援センターと共催で認知症予防教室を開催して地域への啓発活動を行い、視察も積極的に受け入れている。

2. 評 価 報 告 書

（ ▭ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく生きるため、家庭的な環境の中で安らげる場所であること、今までの生活をグループホームの中でも継続できるように援助することを掲げた理念の下、職員・家族・地域住民とが連携して利用者の支援に取り組むよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼の時に出勤職員全員で運営理念・基本方針を唱和し、日々の生活場面において実践できるよう心がけている。また、管理者との話し合いの中で確認している。		
2－2	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	運営推進会議や毎月発行しているホーム便りで、家族や地域の方に利用者が地域の中で暮らし続けることの大切さを伝え、地域密着型サービスの役割、ホームの運営理念や基本方針が浸透するよう努力している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域住民の一人として、草取りや盆踊り、運動会等に参加したり、近隣の学校の文化祭に皆で作った作品を出展するなど、積極的に交流している。また、保育園の園児から老人会の方まで多くのボランティアを受け入れている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の評価結果報告書を全職員が確認し、改善に取り組んでいる。今回も、サービス評価の意義・目的を全職員に周知し、全員で自己評価に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月に開催している。ホームで提供しているサービス内容を詳細に報告し、地域に開かれたホームとなるための意見交換の場として活用している。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月平均2回程度行政の担当者を訪問し、積極的に情報交換に努めている。議会や民生･児童委員の視察や、上越市介護保険評価委員等も積極的に受け入れている。		
6－2	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待の防止･高齢者の養護者に対する支援等に関する法律について、事務長を講師に勉強会を実施し、家族会･管理者･職員等で情報交換を行い虐待防止に努めている。		
		4．理念を実践するための体制			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行のホーム便りに利用者一人ひとりの状態や生活の様子を写真入りで伝えている。家族の来訪時に、職員からは日々の暮らしぶり、看護師からは健康状態、事務からは金銭管理状況を報告している。	○	全体としてのホーム便りに加え、特に頻繁に来訪できない家族に配慮し、家族が知りたい利用者個々の情報を定期的に提供できるようさらなる取り組みを期待したい。また、一般の人の目に触れるホーム便りに利用者氏名をフルネームで掲載しているが、個人情報保護の観点からその取り扱いについて配慮してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会を毎年開催して家族同士の情報交換会を行い、家族の意見･苦情･要望を家族会会長からホームに伝えてもらっている。また、家族の来訪時は、担当職員に気軽に話しかけられるよう、職員の顔写真を玄関に掲示している。		
8－2	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、ホームの運営方法や利用者の受け入れ状況、職員の異動、経営状況等について情報交換を行い、職員の意見･要望を取り入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動･退職がある場合は、利用者への影響を軽減するため、引き継ぎ期間を長くしたり、家族への連絡を早くするなどできる限り配慮している。	○	一年間の職員の異動･離職が多いので、利用者が馴染みの職員からの支援を受けられるよう、離職理由の分析とその軽減に努めてほしい。
9－2	18－2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	研修･マニュアル委員会が構成されており、毎月の職員会議で、協議･検討され、周知徹底と見直しがされている。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5．人材の育成と支援			
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全国認知症グループホーム協会の正会員となっており、県外の研修・介護実践研修・リーダー研修にも積極的に受講させている。法人内での職員研修も開催し、今後は他施設との研修を企画している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症高齢者グループホーム協議会の研修会、交流会に参加したり、他施設との研修会、交流会の実施を検討し、質の向上に努めている。上越市に対し、上越グループホーム連絡協議会（仮称）の立ち上げについて働きかけている。		
11－2	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	新年会・忘年会・納涼会を開催し、職員の親睦の機会を設けている。職員会議での業務カンファレンスや、管理者との個別の話し合い等、ストレス軽減への工夫がされている。福利厚生面では上越勤労者福祉サービスセンターに入会しており、職員に有効に活用されている。		
		Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのでなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前訪問を行ない、その段階から馴染みの関係づくりに努めている。入居前に本人・家族から見学して頂き、体験利用も可能である。入居当初は、利用者の不安を軽減できるよう、家族の訪問を多くお願いするなど家族と連携して支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという認識を全職員が共有し、食事作り・掃除・洗濯・買い物・畑作業・レクリエーションを共に行える場面作りや、雰囲気作りに努めている。		
13－2	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りで利用者の生活の様子を伝えるとともに、行事等への参加を呼びかけ、共に利用者を支援する関係づくりに努めている。また、面会時間を制限しないことや、家族の宿泊室を用意するなど、家族がホームに訪れやすい環境づくりをしている。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
		1. 一人ひとりの把握			
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人が何をしたいか、誰に会いたいか等、日々の会話やかかわりの中での把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族から協力して頂き、情報を得て本人の望む暮らし方を探し、実現できるよう支援している。		
14－2	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力により、利用者本人の人生歴･生活歴調査票を作成している。その人の歴史を知ることで個別の関わり方ができるようになった。		
		2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人･家族から思いや意見を聴き、本人の趣味趣向に応じた活動等も介護計画に反映している。介護計画作成にあたっては職員全員でモニタリングとカンファレンスを行い、主治医の意見も取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行なうほか、利用者の状態変化に応じて、家族や主治医の意見を取り入れて介護計画の見直しを行なっている。		
		3. 多機能性を活かした柔軟な対応			
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主治医と密に連携を図るとともに、看護師2名が配置されており、夜間の状態変化の際に備えて看護師と24時間連絡が取れる体制をとっている。また、状態に応じて看護師や管理者が泊まり込むこともある。今後はデイサービスも受け入れていく予定である。		
		4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。それぞれの主治医との情報交換も密に行なっており、往診も個々の主治医から協力してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時には、重要事項説明書や重度化した場合の対応に係る指針を本人･家族に十分説明し、理解を得ている。ホームとしては、本人･家族の希望に応じて看取りまで支援しており、主治医との連携体制を確立して、本人･家族、主治医、ホーム全体でチームとして取り組んでいる。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報管理規定を職員へ周知徹底するとともに、家族に個人情報の使用について同意書を頂き、確認している。プライバシー保護･認知症高齢者の尊厳の保持に関して職員研修を行ない、利用者一人ひとりを尊重した対応に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた日課に縛られることなく、利用者一人ひとりが何をしたいかを把握して、個別に対応できる体制づくりに取り組んでいる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物･調理を利用者と一緒に行なっている。献立も利用者の希望を聞いたり、畑の野菜を利用して作っている。食後の片付けは、利用者一人ひとりの状態に合わせ、無理のないように参加してもらっている。		
22－2	56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。各居室にトイレがあり、個々のパターンに合わせて個別に支援することができている。	○	終末期の方が一人になることへの不安から終日リビングで過ごされている。おむつ交換が衝立があるにしても皆がいるそばで行われるというのはいかがなものであろうか。個人の尊厳を最後まで尊重した取り組みをお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	楽しく入浴して頂けるように、希望や体調･季節等で柔軟な対応を心がけているが、現在は1日おきに午後の入浴となっている。	○	ホーム開設にあたってリフト浴の設備もなされていたのだが、軽度の人が対象との考えから行政の指導で撤去されたという経緯がある。重度化している現状に、これからの入浴体制を考えて頂き、終末期における入浴支援をお願いしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物が好きな方には編み物をすすめたり、畑仕事の好きな方には家庭菜園を楽しんでいただくなど、個々に合わせて楽しみごとが持てるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食料の買い出しや希望に応じての買い物を日常的に行っている。散歩やドライブも積極的に計画して出かけている。近隣とのふれあいを心がけ、外出時には地域の方に声をかけるよう努めている。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(4) 安心と安全を支える支援				
25－2	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について、絶対にしてはならない事であると理解しており、研修・ミーティング等で話し合い、身体拘束のないケアを実践している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。安心・安全・快適・自由な生活を支援することを念頭におき、自宅に帰りたいという思いがある方や外に出たがる方に対しては、職員間での見守りを行ない、外のベンチで会話して気分転換を図ったり、付き添って一緒に外出するなど個別に支援している。		
26－2	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修・マニュアル委員会と事故防止委員会が中心となって事故防止の研修を行ない、全職員で利用者一人ひとりに応じた事故防止対策に取り組んでいる。		
26－3	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	年1回救命救急法講習会を開催している。ＡＥＤの使用を含めた心肺蘇生法の実技講習を実施したり、定期的に看護師による研修会を行なっている。また、緊急時対応マニュアルを作成し、事故発生時に備えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	上越消防署の指導による年2回の避難訓練を、地元町内会、運営推進会議委員、家族会の協力を得て行なっている。7月の上中越沖地震の際も職員が駆けつけ無事避難することができ、家族への連絡も速やかに行なうことができた。災害時に家族がホームのある地域の避難所の場所を把握できるよう、家族に災害に応じた避難マップを配布している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事・水分摂取状況を毎日記録し把握するよう努めている。主治医や職員からの情報をもとに、一人ひとりの好みや状態に沿った食事提供、適切に摂取してもらえるような声かけが行われている。		

外部	自己	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビング、食堂、廊下は広く、ゆったりとしている。テレビの周りには手作りの作品等を飾ったり、テーブルには金魚鉢を置くなど、あたたかく和やかな雰囲気づくりに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、鏡台やタンスなどの家具が自宅から持ち込まれ、その人らしい部屋となっている。家族による季節ごとの衣類の入れ替え等の支援が行われており、利用者はそれぞれの居室で穏やかに過ごされている。		